

授業 科目	CC2G34	1単位	選択	演習	2学年前期	担当 教員	非常勤講師 鹿山卓耶						
	造形的表現指導法												
授業の概要	① 子どもの発達と造形表現に関する知識と技術を理解するために、テキストを読み解きながら授業を進行する。 ② 造形遊びについて理解を深め、造形表現と子どもの経験を結びつける遊びの展開について学ぶ。 ③ 「材料・方法」、「題材」の観点から教材研究を行う。 ④ 模擬保育を行い、実践的に、造形表現の指導方法について模索する。												
到達目標					学習成果Ⅰ			学習成果Ⅱ			学習成果Ⅲ		
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。					○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	
2. 造形表現に用いる材料・道具・技法を知り、自ら考え、教材として活用する能力を身につける。					○	◎		○	◎	○	○	◎	○
3. 子どもが造形表現に取り組む際の、保育者の支援方法、環境構成及び具体的な展開をするための知識・技術を習得する。					○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
凡例 ◎: 学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○: 学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はVページ参照													
	主 題	準備学習	本時の学習内容と到達目標					復 習					
1	オリエンテーション	メモ・ノートの準備。	当該授業の概要説明と諸注意。学習内容と到達目標について理解する。					次回必要となる材料・道具の用意。					
2	材料・方法から考える 教材研究1	必要な材料・用具等を準備しておく。	造形的な表現活動を「材料・方法」の観点から考える。手指による紙類の加工方法から造形活動を立案する。					次回必要となる材料・道具の用意。					
3	材料・方法から考える 教材研究2	必要な材料・用具等を準備しておく。	紙類を用いた造形活動を実践する。					次回必要となる材料・道具の用意。					
4	材料・方法から考える 教材研究3	必要な材料・用具等を準備しておく。	実践した活動内容を造形教育的な観点で省察し、レポートを作成する。造形活動の内にある教材としての可能性について自身の考えをまとめる。					次回必要となる材料・道具の用意。					
5	題材から考える 教材研究1	必要な材料・用具等を準備しておく。	造形的な表現活動を「題材」の観点から考える。複数の身近な材料を組み合わせて「音の出るおもちゃ」を題材とする造形活動を立案する。					次回必要となる材料・道具の用意。					
6	題材から考える 教材研究2	必要な材料・用具等を準備しておく。	「音の出るおもちゃ」を題材にした造形活動を実践する。					次回必要となる材料・道具の用意。					
7	題材から考える 教材研究3	必要な材料・用具等を準備しておく。	実践した活動内容を造形教育的な観点で省察し、レポートを作成する。造形活動の内にある教材としての可能性について自身の考えをまとめる。					次回必要となる材料・道具の用意。					
8	造形表現に関する 模擬保育1	必要な材料・用具等を準備しておく。	造形表現に関する模擬保育についてのオリエンテーション。少数グループに分かれて模擬保育の題材と内容を決定する。					次回必要となる材料・道具の用意					
9	造形表現に関する 模擬保育2	必要な材料・用具等を準備しておく。	各グループで模擬保育の教材研究を行う。教材研究を基に保育指導案を作成する。					次回必要となる材料・道具の用意。					

